

かんざち

平成 23 年 10 月 31 日発行 出雲市立大津小学校



実りの秋 成長の秋

一学期が始まり二箇月が過ぎました。この間学校では「体育会」をはじめとして「ふるさと発見タイム」「大津地区敬老会」など様々な行事がありました。また、全校での活動だけでなく、体操や金管バンドなどの自分の得意分野を伸ばす活動、各学年で計画しているものもありました。子どもたちは次から次へとやってくる行事や大会に追われながら生活をしています。

毎年一学期はこのように過ぎ、子どもたちにとっては大変なのですが、成長を感じられるのもこの時期です。これらの行事を通して、上級生としてのリーダーシップ発揮の仕方や周りの人の気持ちを思いやりながら行動する配慮、自分のわがままを押し殺しなから周りに合わせようとする協調性などを学んでいます。また、一つ一つの行事に対し、ただやらねばならないのではなく、「自分はこんなふうになりたい」「こんなこともやってみたい」「今年ではこんなふうになりたい」という自分の考えを持ちながら目標を決めて取り組んでいる子どもたちにとっては、創意工夫の発揮できる機会であり、努力のし甲斐がある時期なのです。

側でみている私たちも、はじめの頃と異なっていたことができるようになったり、集団としてのまとまりが感じられるようになっていたり、子どもたちの変化を感じることができているのもこの時期です。また「美の秋」です。また、子どもたちをその気になせるのは私たち教員の役目なのですが、皆々も子どもたちの成長に対して励ましの声をかけていただくとより大きく成長します。よろこばねなごころ。

感動の体育会

「100%の笑顔と100%の力で100%満点の体育会」をスローガンにした大津小学校の体育会を九月二十四日に行いました。心配した雨も上がり、秋晴れの一日となりました。当日はお子さんのがんばりや笑顔がしっかりと見えたかったです。応援や弁当の準備、ありがたかったです。

六年生の子たちについて、大会の運営はもちろん各チームのメンバーをまとめていくために一人ひとりが役割を分担し、時間を気にしながら準備・練習を重ねることにしても大きな経験となりました。教室前の廊下で休憩時間のたびに誘いあわって練習の姿や、下級生に手本を示すために自ら率先して声を出したり行動したりする姿など成長を感じることができました。そんな六年生の姿があったので、大会当日は「級生もテンションの中でお互いの声で応援をしていました。体育会後は音がかわっている子がたくさんいました。それぞれの声、自分たちの持っている100%の力を出してほしいと心をかわせ応援しました。競技の取り組んでいました。

しかし、体育会をとおしての総合的な学びは、この結果だけでは済まされません。喜ぶチームがあつたことはチームも当然の喜びです。けれど、今年度は練習が中心で練習していき

毎年体育会が終わった後、六年生がそれぞれのチームで下級生に対してお話をしたり来年度に向けてのメッセージを送ったSports Dayが、多くの六年生は涙ながら

の語りでした。そして、これまで一生懸命に取り組んできたからなのではないでしょうか。下級生も、その姿を見ていて心が震えたように感じました。振り返りの感想の中で「六年生がすごかった」「六年生のメッセージに感動した」「六年生を勝たせてあげたかった」「など」とはが今年は大活躍もありました。勝ち負けだけでなく、今年も心に響く感動の体育会になったように思います。



小学校におけるキャリア教育

職場体験学習について

九月十六日から二十一日にかけて、出雲一中から五年の三年生が小学校で出てきて職場体験学習をしました。進路選択の一助となるための学習目的で、県内のあつちの中学校で実施されました。

中学校のキャリア教育の目的が職場体験学習であるのに対して、小学校では「学びの楽しさ、将来に向けて考えていくこと、まずは先、心算をしていくこと、そして、勉強、小学校卒業後は全員中学校に入学できるわけではなく、中学校に入ってからでも遅くはないと考えるのもよいです。しかし世の中、目標を掲げることも大切ではないでしょうか。卒業後もリーダーや二丁の増加、新卒

者の早期離職といった問題が起きている

文部科学省は、子どもたちが「生きる力」を身に付け、明確な目的意識を持つて日々の学業生活に取り組む姿勢、激しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択し・決定できる能力をしっかりとつた勤労観、職業観を身に付けたいといっています。そして今後画面学習にあつた様々な課題に柔軟にかつたくまて対応し、社会人・職業人としての自立していくことができるようになるために、キャリア教育の推進を掲げています。

小学校の段階から、自分の責任をもち、乗り越えようとする力、人との関係をうまく築くことができる力を身に付けたいといっています。そして、職業と考えるべき。具体的には学校の係・委員会活動を見通しをわけて行わせる、行事を通して人と人とのつながりの良さを体験やわかるように心がけられます。家庭におけることも、しっかりとつた職業観や勤労観を身に付けたいために、折をみて仕事についてのもらいや苦労話を聞いた方がいい、積極的になつて手伝いをせたりしてもらえればと思います。学校と家庭が一体となったキャリア教育になつてほしいと思います。

ふるさと発見タイム

十月十八日（火）には、体育会で仲良くなった縦割りの班で大津町内の様々な産業や

文化施設、また旧跡を巡りながらふるさと大津の良さを発見する「ふるさと発見タイム」を行いました。

大候に恵まれた気持ちのよい活動でしたが、遠くは上植台の自動車教習所や塩冶神社、四路の出雲チームまで歩いたグループもあり、一年生にとってはかなりの運動量になったといわれています。普段何気なく通る過っている街角の施設、外からしか見たことのないところを訪ねて訪問し、改めて大津の街を発見するようになっています。また、この活動は、各学年で行っている校外活動とは違い、一年生から六年生までの縦割りの活動です。上級生が下級生の歩む速さを疲れ目や汗を流しながら歩いて、弁当やおもてなしを伝えている姿が、そして遊んだりと普段の生活で少ないなつてきた異年齢での活動を楽しく過ごしています。

池田先生の所に行きました。いろいろなおもてなし、いろいろな発見がありました。

先生、おじいちゃん、おばあちゃん、いろいろな発見がありました。おじいちゃん、おばあちゃん、いろいろな発見がありました。おじいちゃん、おばあちゃん、いろいろな発見がありました。

たのびの遠征でなかのほいぐえんとなかのみほ北川さんに行きました。おじいちゃん、おばあちゃん、いろいろな発見がありました。たのびの遠征でなかのほいぐえんとなかのみほ北川さんに行きました。

